

A 課題の整理 援助者が感じている課題

事例にあげた課題に対して、あなた自身が困っていること、負担に感じていること等を具体的に書いてください。

- ・ 日中のアクティビティーの不足。何をしたら楽しんでもらえるのかをつかめないでいる。
- ・ 情報不足と、少しの情報を活かしきれていないこと。

【質問】

どのようなことから、Aさんはアクティビティーを望んでいると感じましたか？

【回答】

自営業であり、自らいろいろと考え動いてきたことから。

B 課題の整理 援助者が想定する対応・方針

あなたは、この方に「どんな姿」や「状態」になって欲しいのですか。

- ・ 帰りたいたいという気持ちは大切にしながら、施設の中でもここで生活していて楽しいと思って欲しい。
- ・ A D L がほぼ自立しているため、できることは進んでやれるようになって欲しい。

【質問】

Aさんは、どのようなことに「楽しい」を求めていると思いますか？

【回答】

外出や、職員とゆっくりと話をしている時などは楽しそうな表情をしている。

【質問】

また、「できることがやれない」状態には、どのような気持ちが隠れていると思いますか？

【回答】

周囲への不満、自分で生活を構築できない不安、いらだち。

そのために、当面どんな取り組みをしたいと考えていますか(考えましたか)。

- ・ おしぼりたたみのみではなく、一緒にできる(または分担できる)役割等を増やす。
- ・ 情報の収集(帰りたいたいと思う時の状態、家での生活状況)と整理、分析。

【質問】

Aさんには、何をしたいかについて、どのような場面で、どのくらいの時間をかけて話を聴きましたか？

【回答】

散歩や昼食後のゆっくりとした時間に、10分から20分程度。

### C 本人の状態や状況を事実に基づいて確認してみよう

困っている場面で、本人が口にする言葉、表情やしぐさ等を含めた行動や様子等を事実に基づいて書いてください。

- ・「家に帰っているいろいとやらなければ・・・」と表情も険しい。
- ・出口をなかなか探せないでいると、さらに「どこに行けばいいの！」と表情が険しくなる。

### D 課題の背景や原因等の整理

本人にとっての行動や言葉の意味を理解するために、別紙の展開図に記入してから、課題の背景や原因として考えられることを書きだしてみましよう。

- ・家庭とかけ離れた環境の中で、自分のやれること、やりたいことが見つけられない不安がある。
- ・家族から見放されたような孤独感がある。
- ・自分の欲求（空腹、温度、音などを含め）が思ったようになえられないでいる。

#### 【質問】

Aさんの快適な空間や状態とは、どのようなことだと思いますか？

#### 【回答】

自らのリズムで生活できること。

### E 事例に書いた課題を本人の視点に置き換えて考えてみよう

ここで、この事例を本人の立場から、もう一度考えてみましょう。

本人の言葉や様子から、本人が困って（悩んで）いること、求めていることは、どんなことだと思いますか？

- ・自分でできることはしたい。自分の生活の流れを大事にしたい。
- ・道しるべを示してほしい。

#### 【質問】

Aさんが、生活の流れに安心できるようになるために、どのような支援が必要だと思いますか？

#### 【回答】

できること、できないことを探り、後方からの支援をしながら生活リズムが構築できるよう支える。

### F 課題解決に向けた 新たなアイデア

あなたが、このワークシートを通じて思いついたケアプランなど、新しいアイデアをいくつか書き出してみましよう。

- ・得意だった料理、家事などの情報収集をする。
- ・家族・本人との三者面談。
- ・自営での経験を活かした得意分野の再現。

**【質問】**

「得意だった料理、家事などの情報収集」をして、具体的にはどのようなことに活かしますか？

**【回答】**

調理等を一緒に行ってみる。できること、やってみたいことの再確認。

**【質問】**

「家族・本人との三者面談」をすることで、何が、どのように変わるとおもいますか？

**【回答】**

本人・家族の希望等の再確認による支え方の工夫、チームでのケアの方向性。

**【質問】**

「自営での経験を活かした得意分野の再現」とは、具体的にはどのようなことを、施設での生活に取り入れることでしょうか？

**【回答】**

施設内での売店での担当や、外出時のお金の計算、お客さんへの対応の方法を教えてもらうなど。

**(助言者の考察)**

出口のない世界をともに味わってみる機会になったことでしょうか。出口を探すことも必要かもしれませんが、まずその不安やいらだちなどの感情をともに味わうことが大切なのです。

本人の過去の生活からの推測は、スタッフができるだけたくさんの選択肢を共有していることが重要となります。やりたいことが現実的にならぬとは限りませんが、本人にできることが見つかったなら、それが実行できるように環境を整えることが大切です。本人の言動から決めつけてしまうことなく、できるだけ多くの選択肢を持って関わる必要があります。

課題解決のためには、今後確認することや、何を実行していくのか、まず具体的に挙げてみる必要があります。そして実現可能なことなのか、実現可能でなければどのような代替案があるのか、具体的に検討することが必要です。本人の思う理想と現実には隔たりがある場合が少なくありません。その隔たりに対してどのように関わっていくのが大切なのではないでしょうか。現実を見つつも、本人の視点に立つことを忘れずに関わることで、隔たりを感じ取ることができるようになるのではないのでしょうか。チームケアを進めるにあたって、計画を立てること、役割を決めること、情報を共有することが大切になります。家族から話を聞く際にも、あらかじめどのようなことを聞いてどう活かしたいか、チームで検討してみたいかがでしょうか。